

◆ 今週のコメント

- ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が1例(70歳代男性)ありました。症状はショック, 肝不全, 腎不全で, 感染地域及び感染経路は不明です。本年の累積報告数は3例となりました。
- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(90歳代女性)あり, 症状は発熱, 咳, 全身倦怠感, 意識障害, 肺炎, 菌血症です。感染地域は国内で, 感染経路は不明です。本年の累積報告数は16例となりました。
- ・ 梅毒の報告が2例(10歳代女性(第21週追加分)及び20歳代女性)ありました。本年の累積報告数は26例となりました。
梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け, コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見, 早期治療が非常に重要です。
○厚生労働省「梅毒に関するQ&A」
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は1.07(46例)となり, 前週の0.77(33例)からわずかに増加しています。全国でも同様の傾向です。手洗いやうがいの励行, 食品の十分な加熱, 調理器具の消毒など予防に努めましょう。

◆ 今週のトピックス: <新型コロナウイルス感染症>

京都市では, 第21週から2週続けて新型コロナウイルス感染症の報告例はありません。自粛要請が解かれ, 徐々に普段の生活を取り戻しつつありますが, 今後も再度の感染拡大を防ぐための継続的な対策が重要です。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 2例(肺結核 1例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 1例
- ・ 五類:劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 3例】
- ・ 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 16例】
- ・ 五類:梅毒 3例【1月以降の累積報告数 26例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

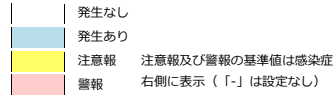
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.01	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.07	46
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.51	22
	② 突発性発しん	0.51	22
	④ 手足口病	0.12	5
	⑤ 水痘	0.05	2
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

【次ページ以降の主な内容】

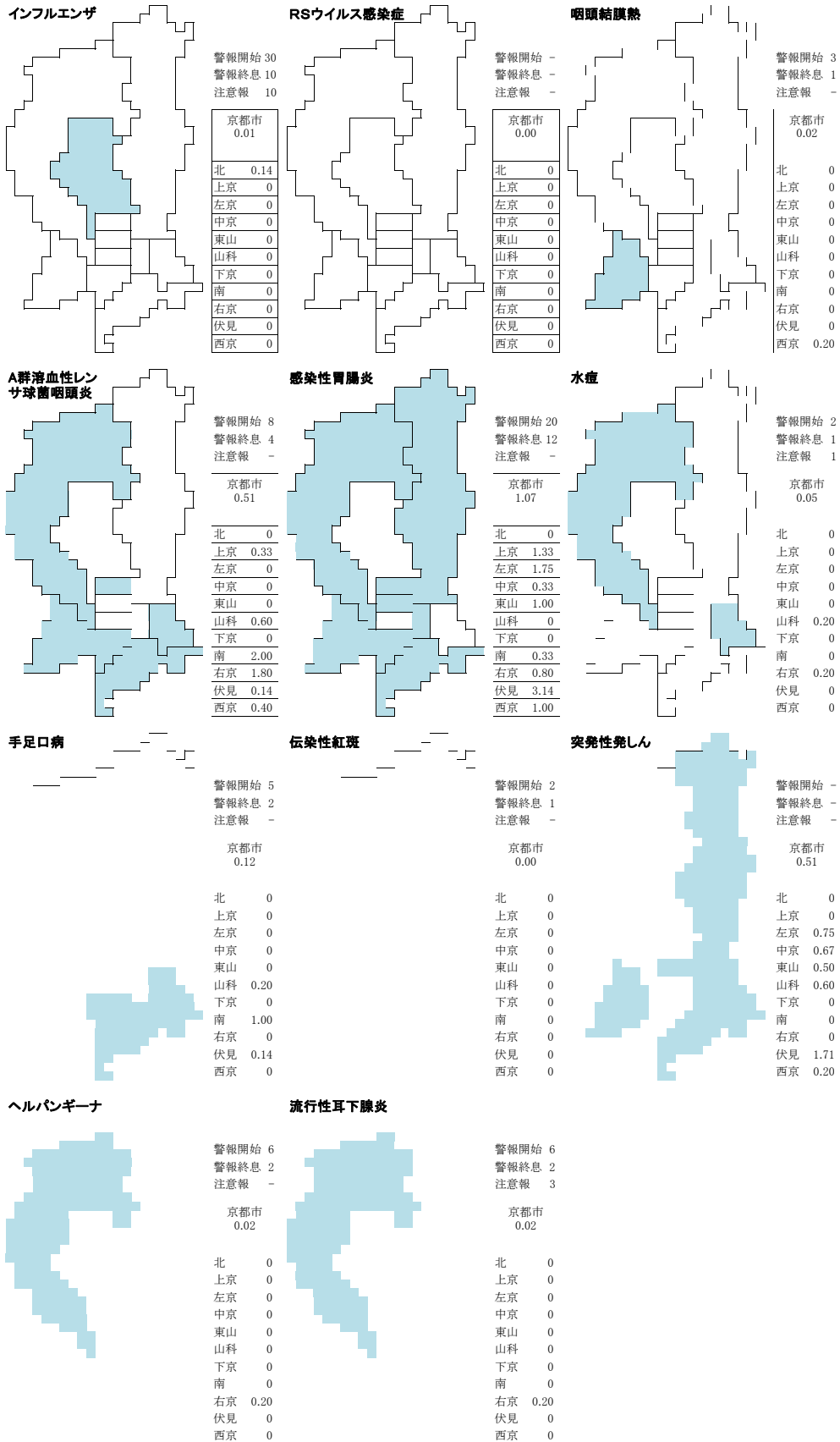
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <新型コロナウイルス感染症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2020年6月3日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2020年 第22週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。」



第22週(5月25日～5月31日)トピックス: <新型コロナウイルス感染症>

京都市における第22週の新型コロナウイルス感染症の報告は無く、累積報告数は前週と変わらず248例となっています。第21週から2週続けて報告例はありません。自粛要請も解かれ、徐々に普段の生活を取り戻しつつありますが、今後も再度の感染拡大を招かないための継続的な対策が重要です。

「かからない」「うつさない」ためには以下の対策が重要です。

- 「密集・密閉・密接」のいわゆる「三密」を避けるようにしましょう。
- 手洗いが重要です。外出先から帰宅時や調理の前後、食事の前などこまめに石鹸と流水で手を洗いましょう。
- 咳をする場合には口や鼻をティッシュで覆うなど、咳エチケットを守りましょう。



なお、これから、夏を迎えるにあたり、感染拡大防止のための「新しい生活様式」を実践する中で、熱中症予防行動のポイントを環境省及び厚生労働省が公表しています(下図)。暑さを避けることや、こまめな水分補給など、通常の熱中症予防方法に加えて、マスクの着用については、気温が上昇するこれからの時期は、熱中症の恐れが高まるため、屋外で近くの人と十分な距離(2m)を確保できる場合にははずし、着用する際には、強い負荷の作業や運動を避けましょう。

さらに、日本小児科医会からは下記の理由から「2歳未満の子どもにはマスクは不要でむしろ危険」との提言も出されています。(https://www.jpa-web.org/dcms_media/other/2saimimann_20200525.pdf)

- ①乳児の呼吸器の空気の通り道は狭いので、マスクは呼吸をしにくくさせ、呼吸や心臓への負担になる。
- ②マスクそのものや嘔吐物による窒息のリスクが高まる。
- ③マスクによって熱がこもり熱中症のリスクが高まる。
- ④顔色や口唇色、表情の変化など、体調異変への気づきが遅れる。



令和2年度の 熱中症予防行動

環境省
厚生労働省
令和2年5月

「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント

新型コロナウイルスの出現に伴い、感染防止の3つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや、「3密(密集、密接、密閉)」を避ける等の「新しい生活様式」が求められています。このような「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントは以下のとおりです。

1 暑さを避けましょう

- ・エアコンを利用する等、部屋の温度を調整
- ・感染症予防のため、換気扇や窓開放によって換気を確保しつつ、エアコンの温度設定をこまめに調整
- ・暑い日や時間帯は無理をしない
- ・涼しい服装にする
- ・急に暑くなった日等は特に注意する

3 こまめに水分補給しましょう

- ・のどが渇く前に水分補給
- ・1日あたり1.2リットルを目安に
- ・大量に汗をかいた時は塩分も忘れずに

2 適宜マスクをはずしましょう



- ・気温・温度の高い中でのマスク着用は要注意
- ・屋外で人と十分な距離(2メートル以上)を確保できる場合には、マスクをはずす
- ・マスクを着用している時は、負荷のかかる作業や運動を避け、周囲の人との距離を十分にとった上で、適宜マスクをはずして休憩を

4 日頃から健康管理をしましょう

- ・日頃から体温測定、健康チェック
- ・体調が悪いと感じた時は、無理せず自宅で静養

5 暑さに備えた体作りをしましょう

- ・暑くなり始めの時期から適度に運動を
- ・水分補給は忘れずに、無理のない範囲で
- ・「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度で毎日30分程度

高齢者、子ども、障害者の方は、熱中症になりやすいので十分に注意しましょう。3密(密集、密接、密閉)を避けつつ、周囲の方からも積極的な声かけをお願いします。




新型コロナウイルス感染症に関する情報:
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html
 熱中症に関する詳しい情報: <https://www.wbgt.env.go.jp/>



(厚生労働省HPより)

参考情報

○厚生労働省では、新型コロナウイルス感染症に関する情報を掲載しています。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

○京都市では、新型コロナウイルス感染症の最新の動向を提供しています。

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第22週

疾病,行政区別報告数

2020年5月25日～2020年5月31日

データ入手日:2020年6月3日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計																		
北	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-					
左京	-	-	-	-	7	-	-	-	3	-	-	-	-					
中京	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-							
山科	-	-	-	3	-	1	1	-	3	-	-	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	-	-	-	6	1	-	3	-	-	-	-							
右京	-	-	-	9	4	1	-	-	-	1	1	-	2					
伏見	-	-	-	1	22	-	1	-	12	-	-	-	-					
西京	-	-	1	2	5	-	-	-	1	-	-	-	-					
京都市計	1	-	1	22	46	2	5	-	22	1	1	-	2	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計																		
北	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	0.33	1.33	-	-	-	-	-	-	-	-					
左京	-	-	-	-	1.75	-	-	-	0.75	-	-	-	-					
中京	-	-	-	-	0.33	-	-	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	1.00	-	-	-	0.50	-	-							
山科	-	-	-	0.60	-	0.20	0.20	-	0.60	-	-	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	-	-	-	2.00	0.33	-	1.00	-	-	-	-							
右京	-	-	-	1.80	0.80	0.20	-	-	-	0.20	0.20	-	2.00					
伏見	-	-	-	0.14	3.14	-	0.14	-	1.71	-	-	-	-					
西京	-	-	0.20	0.40	1.00	-	-	-	0.20	-	-	-	-					
京都市計	0.01	-	0.02	0.51	1.07	0.05	0.12	-	0.51	0.02	0.02	-	0.20	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第22週

年齢階級, 疾病別報告数

2020年5月25日～2020年5月31日

データ入手日:2020年6月3日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		22	1	-	3	2	3	3	3	1	1	2	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		46	1	1	9	3	3	3	3	3	4	-	2	8	-	6	-	-	-	-	-	-
水痘		2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		5	-	-	2	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		22	1	5	14	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.51	0.02	-	0.07	0.05	0.07	0.07	0.07	0.02	0.02	0.05	0.02	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		1.07	0.02	0.02	0.21	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.09	-	0.05	0.19	-	0.14	-	-	-	-	-	-
水痘		0.05	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.12	-	-	0.05	0.02	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.51	0.02	0.12	0.33	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	-	0.10	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第22週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2020年6月3日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	2	1	-	-	-	1
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	1	1	2	-	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	20	23	17	25	13	22
感染性胃腸炎	35	30	25	34	33	46
水痘	2	2	2	1	1	2
手足口病	3	1	4	2	5	5
伝染性紅斑	1	3	2	3	2	-
突発性発しん	16	10	7	8	15	22
ヘルパンギーナ	1	-	-	-	1	1
流行性耳下腺炎	-	2	1	2	1	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	1	-	1	1	2
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	83	74	60	76	72	103

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	0.03	0.01	-	-	-	0.01
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	0.02	0.02	0.05	-	-	0.02
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.47	0.53	0.40	0.58	0.30	0.51
感染性胃腸炎	0.81	0.70	0.58	0.79	0.77	1.07
水痘	0.05	0.05	0.05	0.02	0.02	0.05
手足口病	0.07	0.02	0.09	0.05	0.12	0.12
伝染性紅斑	0.02	0.07	0.05	0.07	0.05	-
突発性発しん	0.37	0.23	0.16	0.19	0.35	0.51
ヘルパンギーナ	0.02	-	-	-	0.02	0.02
流行性耳下腺炎	-	0.05	0.02	0.05	0.02	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.20	0.10	-	0.10	0.10	0.20
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	2.07	1.79	1.40	1.84	1.75	2.54

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。